

(5-1) 第1回登米圏域会議

【日時】令和3年5月26日(水) 10時00分から12時00分まで

【場所】登米合同庁舎5階501会議室

【委員からの主な意見】

- ① コロナ禍で観光客の大半は自家用車で、タクシーや観光バスの利用が増えた実感はない。
- ② 宿泊の選択肢が増え、キャンプや民泊が伸びており、旅館、特に小規模な宿泊業者は苦戦している状況。
- ③ 自家用車以外で来訪する方向けのターミナル駅等からの交通網の情報をプランに入れるべき。
- ④ 観光と農業の横の繋がりが大切。会議にも農業関係者の意見を取り入れるべき。
- ⑤ 観光業には、農業・飲食業等いろいろな分野が関わっている。農業体験やその他の産業体験をしてもらうのであれば、受入側として、地域の方々の協力が得やすい時期等を十分に話し合ってから企画することが大事で、異業種で交流する機会を作ることも大切。
- ⑥ 観光客の受入に際しては、観光客にガッカリさせないように訪れてよかったと思える工夫や準備を街全体で行うことが大切。
- ⑦ 今は、コロナ禍で人の行き来は難しいが、手紙や電子メールで繋がりを保つ等、リピーターを大切にすることが必要。
- ⑧ 仙台市には、仕事で出張される方が多いので、そういう方に登米市に足を運んでもらえるよう、登米市のことをもっと知ってもらえることが必要。
- ⑨ コロナ禍の中で、多くの観光地が観光客の呼び込みに苦労していると思うが、登米には「おかえりモネ」という素材があるので、気仙沼市と一体となったプロモーションなどで、今年だけではなく複数年繋げていけるような取組が必要。
- ⑩ コロナ禍で気軽に外出することが難しい反面、自然が再注目されている。ホームページやYouTubeを活用し、「おかえりモネ」のロケ地を配信するなど、継続的に接点を持つことが大切。
- ⑪ 登米市の最大の魅力は、自然である。空、雲、森、水、空気、そういったものが観光資源だと「おかえりモネ」を見て感じた。
- ⑫ 「おかえりモネ」で登米市が全国的に注目を浴びていることをもって、戦略的に旅行会社や宿泊業者に対して地域全体が連携して、登米市を売り込むことが有効。
- ⑬ 「おかえりモネ」の放送が始まり、観光客は増えたが、テレビで登場したスポットだけを見て、他には足を運ばない傾向がみられる。
- ⑭ 限られた期間の放送なので、観光客を呼び込むためには、登米市全体で舞台となっていることをうまくPRしていく必要を感じる。
- ⑮ 登米市の観光コースも自家用車の場合や新幹線の場合で構想を作り、観光客がカスタマイズできるような仕組みも大事。
- ⑯ 登米市が「おかえりモネ」の舞台となったが、市内でも積極的なところとそうでないところの温度差が感じられる。
- ⑰ 「おかえりモネ」で放送された場所を地元出身の方が質問されて、答えに窮したとの話も聞き、改めて地元を知ることが大切と感じる。